

境界争いと刃傷事件

仙台市博物館 学芸企画室 菅原 美咲

第7回

今回は、境界争いを発端として、伊達騒動の重大な局面となる刃傷事件と事件に至る経緯をご紹介します。

境界争いの発生

仙台藩では、藩主の亀千代（のちの伊達綱村）が幼少のため、伊達宗勝と田村宗良による後見人体制のもと、宗勝の専横に対する不満が高まっていました。寛文五年（一六六五）、一門で涌谷の知行主伊達宗重と、同じく一門で登米の知行主伊達宗倫の間で領地の境界争いが起こります。争いは、谷地と呼ばれる未開発地の帰属をめぐる、双方が領有権を主張したことに始まりました。当時仙台藩では、藩内各地で知行地を与えられた家臣を主体とする新田開発が盛んに行われていました。そのため、開発対象地となる谷地の境界や領有権をめぐる紛争が発生しやすい状況にありました。

藩内での内向きの調停

藩主幼少のため幕府の監察のもと、後見人体制による藩政を行っていた仙台藩にとって、藩内の紛争、特に家格最高位の一門同士の紛争の深刻化は避けたい事態で

した。そのため、奉行や後見人は他の一門へ仲裁を依頼したり、内々に幕府へ相談をしたりして調停を進めました。宗重も宗倫もかつて亀千代が藩主となった際に「何事も相談し、十年の内は諸事堪忍す」と誓約しており、両者とも「亀千代様」のためとして、調停案を受け入れ、係争地の境界を決める検分が行われました。

幕府への上訴と刃傷事件

しかし、この検分で担当役人に不正があったとして、宗重は藩の奉行や後見人らへ訴え、さらには幕府へ訴えることを決めます。宗重は、事ここに至っては検分の不正だけでなく、不正を生み、それに対処できない奉行たち、さらには後見人宗勝の専横的な政治体制そのものを問題として幕府に訴えました。

これを受け、宗重や奉行らが江戸に呼ばれ、幕府で審議が行われました。寛文十一年（一六七二）三月二十七日、幕府大老酒井忠清邸での最終審議の際、奉行原田宗輔が突然宗重を切りつけるという刃傷事件を起こし、宗重・宗輔および同席していた奉行柴田朝意らが混乱の中で斬り合いとなり絶命するという予想外の展

開を迎えました。しかし、藩主綱村（当時の名は綱基）は若年を理由に責任は問われず、仙台藩の存続には影響しませんでした。一方の後見人は一連の事件の責任を問われ、宗勝は高知（高知県高知市）で終身拘禁、田村宗良は謹慎処分である閉門となり、後見人政治も終わりを迎えたのです。



伊達騒動を題材にした実録物の筋書と絵からなる『伊達記』
右は幕府での審議、左は刃傷事件の場面（部分） 仙台市博物館蔵

刊行物のご紹介



「仙台市史」活用資料集vol.2～8

『仙台市史』の中から区ごとの歴史を取りあげ、コンパクトに紹介しています。仙台の歴史をさらに深く知るためのヒントが満載です。
vol.2 若林区の歴史探し vol.5 太白区の歴史探し-西部-
vol.3 泉区の歴史探し vol.6 太白区の歴史探し-東部-
vol.4 宮城野区の歴史探し vol.7 青葉区の歴史探し-西部-
各巻600円(税込)
vol.8 青葉区の歴史探し-東部-
A4/オールカラー/16ページ(vol.8のみ24ページ)
※「vol.1 授業で使える仙台の歴史余話」は完売しました

お求めはこちら

カネイリ ミュージアム ショップ
KANEIRI Museum Shop 6
場所：せんだいメディアテーク1階
営業時間：10時～20時（毎月第4木曜日休）
電話番号：022-714-3033
※KANEIRI Museum Shop 6での取り扱いは、令和6年3月31日までとなります。
市政情報センター
場所：仙台市役所2階
開館時間：9時～17時（土・日・祝・毎月第4水曜日休）
電話番号：022-214-1239



購入方法などの最新情報は、博物館ホームページでご案内しています

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事に伴い休館しています。令和6年4月2日から再開館の予定です。